

自然科学学習館のご紹介

自然科学学習館は、秋田拠点センターALIVE(アルヴェイ)にあります。

ALIVEとは秋田駅の東側と西側が一体となったまちづくりを実現するため、市民の交流空間と魅力ある都市機能を、市と民間の連携により整備している複合ビルです。

「アルヴェ」：彦星（Altair）と織姫星（Vega）からなる造語。拠点センターを秋田の新星としてイメージしています。交流の拠点として大勢の人でにぎわっていて欲しいという願いを込め「そこに行けば何かがあるさ（あるべ）」と、イタリア語の alveare（大勢の人が集まる場所）を掛けています。応募総数281作品の中から選定されました。

設置目的

本館は、時代の要請に応える事柄を企画展示することにより、次代の秋田を担っていく人材の育成に資することを目的に設置され、その時代の市民ニーズに対応した内容を参加体験型の情報として発信します。

具体的には、科学教育や体験的な学習、総合的な学習の時間、学校週5日制への対応を視野に入れながら、広く市民に対して「生物」「自然」「宇宙」をテーマに、身の回りの様々な事象に関する科学的な見方を広げ、「不思議」と「驚き」を発見し、解明する力を養うことができるテーマ展示やワークショップ、自由参加型体験学習を展開することとしています。

業務内容

(1) 展示体験

導入展示	- 館内の環境特性を生かした大スケール展示 -
展示体験	- 各種効果と工夫による学びの2ウェイ展示 -
解説コンテンツ	- 展示内容を詳細に解説するデジタル情報 -

(2) ワークショップ

学校教育企画	- 小中学生の学校教育利用 -
社会教育企画	- 青少年や一般の利用に対応した企画 -
特別企画	- 研究者等を招いた講座やワークショップ企画 -

(3) 自由参加型体験学習(調べ学習)

科学おもしろグッズ	- 約150点の体験備品 -
学習支援デジタルコンテンツ	- ノート型パソコン45台、グループウェア運用 -
図書貸し出し	- 約500冊の科学入門、郷土秋田の本等 -

継続的利用への対応

本館が、拠点センター公共棟内の一施設であることは、恒常的な賑わい創出の一翼を担うことを示します。来館者は、科学に関する学習目的を有する方から、何気なく立ち寄り気軽に科学に触れ親しむ方まで、幅広い目的と年齢層が予想されます。リピーターを誘発し、施設の進化を目指す上で以下の視点を大切にします。

- (1) 秋田らしさが感じられる雰囲気づくりと情報更新
- (2) 身近な科学を題材にした各種企画の多様性と柔軟性
- (3) 来館者、運営協力員の声を反映した評価と改善
- (4) 科学教育発展と市民サービスをふまえた職員研修
- (5) 関係諸機関との長期連携

